

特産品青果物をはじめ、様々な作物の栽培を学ぶ 複合経営の広がりを目指し、栽培講習会を開催



▲講習を参考に、今年の営農計画を考える参加者

JA青果物連絡協議会と能代市農業技術センターが主催する、冬期野菜栽培講習会が2月5日と6日の2日間にわたり、能代山本広域交流センターで開催されました。

農家が各作物の栽培知識を深め、複合経営のための足がかりとして、毎年この時期に開催しています。2日間で6講習が行われ、約200名の生産者が参加しました。講習では主力作物のねぎのほか、トマトやリンドウなど野菜全般の栽培や土づくりについて説明が行われ、参加者は気象変動や市場需要品目への対応等について学びました。



J Aみどりの広場に、管内生産者などが出演 JAグループ企画提供番組で、白神山うどを紹介



▲鈴木和子会長と役員の小川輝子さんたちが、竹島アナウンサーへ料理をPR

毎週土曜日11時からAKT秋田テレビで放送している、『JAみどりの広場』の収録が2月10日に管内で行われ、農産物の特徴や料理などについて紹介しました。

今回は特産品である「白神山うど」を取材しました。生産者紹介では、桜田和浩さん（山うど部会長）の圃場へ伺って、今後の展望や栽培へのこだわりを取材。またみょうが館で、はまなす産直会の会員がエゴマを使った和え物や天ぷらなど、様々な山うどの料理方法を紹介し、特産品をアピールしました。



▲収穫作業を教える桜田部会長

特産品の販売促進、知名度向上に活用 『白神ねぎ』ステッカーで、ブランドイメージアップを促進



▲完成したステッカーを貼る山谷部会長

ねぎ部会（山谷初男部会長）とJAは、白神ねぎの年間販売高10億円達成を目指し、プロジェクトチームを設けて様々な取り組みを行っています。

今年度は9億円を超える販売高となり、来年度の10億円達成で更なるブランド強化を目指します。また取り組みの1つとして、昨年デザインを公募した『白神ねぎ販売促進ステッカー』がこの度完成しました。このステッカーは販促グッズや各種イベントで利用されるほか、JA・ねぎ部会員の作業車等に貼られ、特産品の知名度向上に活かされます。

